

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/08/01

夏枯れで方向感なくなる時期も

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	後半は米国の利上げ時期がテーマに 予想レンジ: 74.000 ~ 80.000 円	2 - 3
NZドル/円	↘	まずはRBNZ声明を確認 予想レンジ: 70.000 ~ 76.000 円	4 - 5
ランド/円	➡	追い風ストップに警戒 予想レンジ: 6.700 ~ 7.800 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

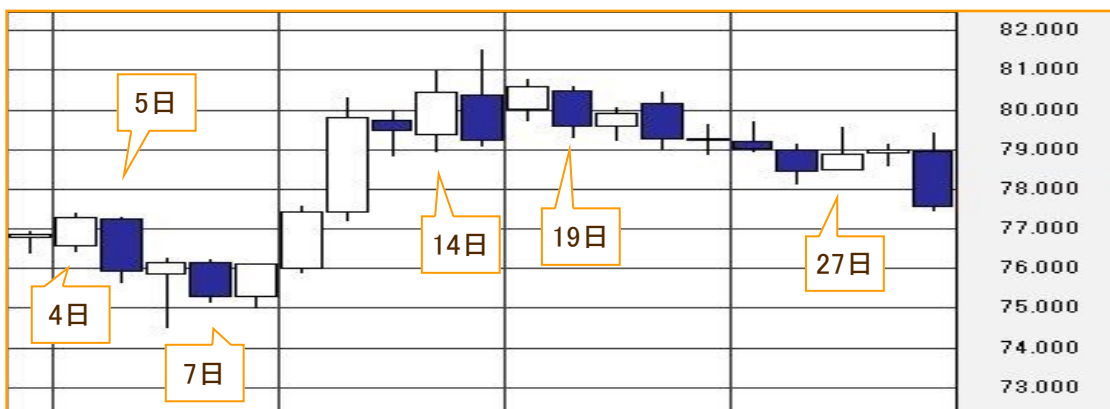
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 7月の推移

AUD/JPY

7月の豪ドル/円相場は74.532～81.509円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.8%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

月初は先月下旬に決定した英国の欧州連合(EU)離脱に関する不安が広がる中でリスク回避目的の円買いが出やすく、豪ドル/円にも重石となった。豪中銀(RBA)が声明で近い将来の利下げを示唆しなかった点や、格付け会社による豪州の格下げも豪ドル売りの材料視された。しかし、日本政府が経済対策を打ち出すのでは、との期待から円が売られると、豪ドル/円は反発。豪6月雇用統計の好悪結果なども手伝い、15日には81.509円の高値をつけた。それ以降は、RBAの8月利下げ観測が根強い中で豪ドルの頭は押さえられ、ジリジリと上げ幅を縮小。さらに、29日に日銀が追加緩和を決定したものの、内容がETFの増額(3.3兆円→6.0兆円)に留まった事が却って市場の失望を呼ぶ形になると円買いが強まった。



四本値

OPEN	76.797
HIGH	81.509
LOW	74.532
CLOSE	77.581

4日	2日に行われた豪州の総選挙が与野党接戦で、結果が出るのが5日以降であると報じられた事から、政局の先行き不透明感を嫌気した豪ドル売りが出て、朝から下落。ただし、安寄りした日経平均が切り返すと、豪ドル/円も反発した。
5日	英国で商業用不動産ファンドが解約停止を発表した事を受け、主要国株価が軒並み安となる中、豪ドル/円も下落。さらに豪5月貿易収支は22.18億豪ドルの赤字(予想:17.00億豪ドルの赤字)、豪5月小売売上が前月比+0.2%(同:+0.3%)と、双方市場予想よりも弱い結果になった点も重石となった。RBAが市場予想通り政策金利据え置きを発表し、声明で「金融政策を維持するのが適切と判断」「インフレ率はかなり低い」「しばらくの間かなり低い状態が続くと予想」「金融市場は英国の国民投票後に変動が激しい」「英国国民投票が世界へ与える影響はまだ見極められず」「豪ドル高が経済的な調整を複雑化する」「さらなる情報が成長とインフレの見通しの評価を改善し、適切な政策スタンスへ調整させるだろう」などした。近い将来の利下げに向けた踏み込んだ言及がなかった事から、豪ドルは一時上昇する様子も見せたが、その後は英国の追加緩和期待でポンド/円が大きく値を下げると、豪ドル/円も連れ安となった。
7日	格付け会社S&Pが豪州の格付け見通しを引き下げた(安定的→ネガティブ)ことを受けて豪ドル/円は下落。一旦は切り返す様子が見られたが、米エネルギー情報局(EIA)の週間原油在庫統計において、在庫の減少幅が前週から大幅に縮小していた事を嫌気してNY原油が値を下げると、豪ドル/円も失速した。
14日	豪6月雇用統計は、失業率5.8%、就業者数0.79万人(予想:5.8%、1.00万人増)であった。ただ、就業者数の内訳で正規雇用者数が3.84万人増と前月(増減なし→0.25万人増に修正)から大幅に増加したほか、労働参加率は64.9%と予想(64.8%)を上回った事を受け、豪ドル/円は上昇。さらにその後、「前内閣官房参与の本田氏が『4月訪米時に永久国債の発行をバーナンキ氏と議論』」との報道を受け、円売りが活発化すると、豪ドル/円も一段高となった。
19日	RBAが発表した理事会議事録では「今後入手するデータで中銀は見通しの精度を高める」「インフレ指標は依然、平均を下回っている」「最近の雇用指標はマチマチ」「豪ドル高は経済のリバランス複雑化させる恐れ」などとあった。利下げに向けた目新しい点がなかった事から発表直後は一旦は豪ドル買い優勢となった。しかし、日経平均の伸び悩みを受けて円が買われる中、すぐに売り優勢に転じた。
27日	豪4-6月期消費者物価指数は前年比+1.0%(予想+1.1%)、基調インフレ率・前年比+1.50%(同+1.40%)と、総合は市場予想を下回ったものの、基調インフレ率が予想値よりも高かった。これを受け、発表直後の豪ドルは上昇。ただ、依然インフレターゲット(2-3%)の下限を割っており、基調インフレ率の上昇幅は前期(+1.55%)より小さくなっている事から、すぐに上げ幅を縮小した。その後、日本の経済対策についての観測報道が飛び交う中で豪ドル/円は乱高下する様子も見せた。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	15698.02
HIGH	16938.96
LOW	15106.52
CLOSE	16569.27

NYダウ平均

OPEN	17924.24
HIGH	18622.01
LOW	17713.45
CLOSE	18432.24

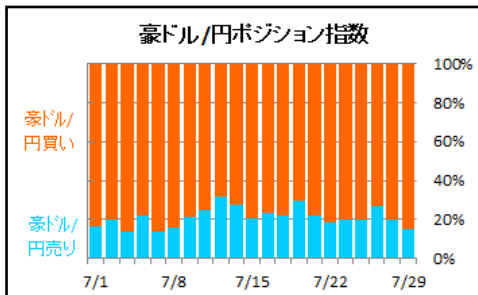
上海総合指数

OPEN	2931.802
HIGH	3069.047
LOW	2922.520
CLOSE	2979.339

豪10年債利回

OPEN	1.977%
HIGH	2.036%
LOW	1.834%
CLOSE	1.874%

7月のポジション動向



8月の豪州・中国の注目イベント

- ・7月中国財新製造業PMI(1日)
- ・6月豪貿易収支(2日)
- ・6月豪住宅建設許可件数(2日)
- ・RBAキャシュターゲット(2日)
- ・6月豪小売売上高(4日)
- ・RBA四半期金融政策報告(5日)
- ・7月中国貿易収支(8日)
- ・7月中国消費者物価指数(9日)
- ・スティーブンスRBA総裁講演(10日)
- ・7月中国鉱工業生産(12日)
- ・7月中国小売売上高(12日)
- ・RBA議事録(16日)
- ・7月豪雇用統計(18日)
- ・7月豪住宅建設許可件数(30日)

8月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

8月の豪ドル/円の最初の山は、2日のRBAの政策金利発表になるだろう。市場では、利下げ予想が多いものの、根強い据え置き予想もあり、発表後の豪ドル/円はいずれの結果になっても荒れる見通しだ。ただ、利下げの場合、このところのRBAは金融政策をしばらく据え置いて様子を見るというスタンスを示すことが多く、同様の声明文となれば、初動の豪ドル売りが一服した後は急反発の可能性がある。一方、据え置きとなって豪ドル高が進んだ場合でも、声明文において「前回声明よりも利下げに向けて前向きな様子」が見られれば、次第に豪ドル売りが強まるものと考えられる。今後の金融政策の行く先を確認するという面では5日発表のRBA四半期金融政策報告も注目されよう。

RBAの2大イベントおよび米7月雇用統計(5日)を月初に通過すれば、しばらくは市場参加者が夏休みに入り、市場が閑散とする可能性がある。株や原油価格を眺めつつも、しばらくは大きな方向感が出ない可能性があるだろう。ただし、月末に入って市場参加者が増えだすと、金融市場は次第に米国の9月利上げの可能性を模索する流れになりそうだ。米国の要人発言、特に26日にジャクソンホールで公演を行う米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長のコメントによって9月利上げを意識する向きが増えれば、主要国株価の重石となり、引いては豪ドル/円の逆風となる事もあり得る。(石川)

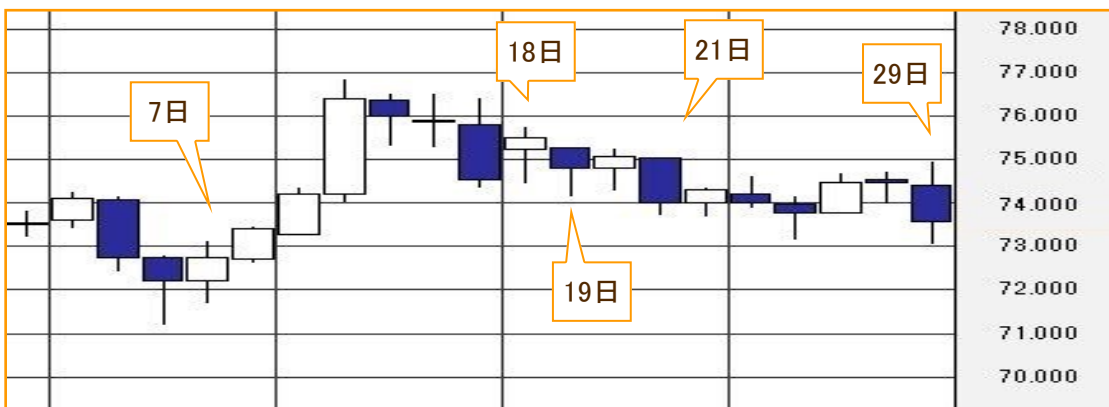
(予想レンジ: 74.000~80.000円)

NZドル/円 7月の推移

NZD/JPY

7月のNZドル/円相場は71.247～76.841円のレンジで推移。月間の終値ベースではほぼ横ばいとなった。

前半のNZドル/円は、スペンサーNZ中銀副総裁の利下げへのネガティブな発言を背景とするNZドル買いや、本邦政府が経済対策を打ち出すとの期待感が高まった事を受けた円売りを追い風に76.841円まで一時上昇。しかし、その後はNZ中銀(RBNZ)の利下げ観測が再び広がり、NZドルは軟化。さらに、29日には日銀の追加緩和に対する市場の失望感を背景とする円買いも相まって、NZドル/円は上げ幅を完全に消した形となった。



四本値

OPEN	73.568
HIGH	76.841
LOW	71.247
CLOSE	73.582

7日	スペンサーRBNZ副総裁が「さらなる利下げは金融安定性のリスクをもたらす可能性がある」と発言した事を受けてNZドルは上昇した。
18日	NZ4-6月期消費者物価指数が前年比+0.4%と市場予想(+0.5%)を下回った事を受けてNZドルは失速。ただし、NZ市場に入るとNYダウ平均が上昇した事を受けて下げ幅を圧縮した。
19日	RBNZが住宅投資の制限変更を提案。これを市場は「利下げがより近くなった」と受け止め、NZドルは窓を開けて下落して始まった。その後も日経平均の伸び悩みを受けて円買いが進み、NZドルは軟調な展開が続いた。なお、NZ乳業大手フォントラの電子入札GDTの物価指数が発表されたが、前回比で横ばいだったことからNZドルに反応は見られなかった。
21日	早朝にRBNZが経済見通しを発表し、その中で「インフレ率を中銀目標に戻すためには一段の緩和が必要となる公算が大きい」「NZドルの下落が必要になる」との見解を示した事を受けてNZドル/円は下落。さらに欧州市場に入り、一部通信社が「日銀内で量的質的緩和の持続可能性について懸念が広がりつつある」と報じられた事や、黒田日銀総裁のコメントとして「ヘリコプターマネーは必要ないし、可能性もない」と報じられた事(のちにインタビュー元のBBCから一カ月以上前のインタビューだった事が公表された)から円が全般的に上昇すると、NZドル/円は下値を切り下げた。
29日	NZ6月住宅建設許可は前月比+16.3%と前月(+0.1%)から大きく伸びたが、NZドル相場でほとんど反応は見られなかった。この日は日銀の金融政策決定会合に対する思惑で発表前は乱高下。日銀がETFの買入規模を拡大(3.3兆円→6.0兆円)すると、発表直後は円売りが強まり、NZドル/円は74.964円まで一時上昇したが、その規模に対して市場の失望感が広がると、一転して円買い優勢となり、73.106円まで値を下げた。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	15698.02
HIGH	16938.96
LOW	15106.52
CLOSE	16569.27

NYダウ平均

OPEN	17924.24
HIGH	18622.01
LOW	17713.45
CLOSE	18432.24

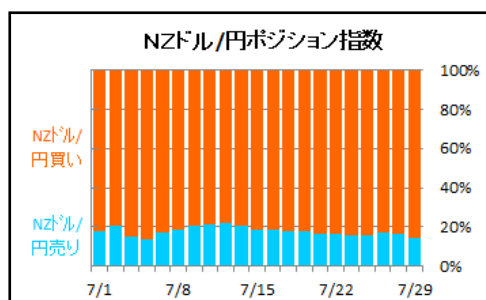
上海総合指数

OPEN	2931.802
HIGH	3069.047
LOW	2922.520
CLOSE	2979.339

NZ10年債利回

OPEN	2.352%
HIGH	2.352%
LOW	2.189%
CLOSE	2.205%

7月のポジション動向



8月のNZの注目イベント

- ・NZフォンテラ入札(5日、19日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(10日)
- ・4-6月期NZ小売上高指数(12日)
- ・ウィーラーRBNZ総裁、講演(15日)
- ・4-6月期NZ生産者物価指数(17日)
- ・4-6月期NZ雇用統計(17日)
- ・7月NZ貿易収支(24日)
- ・7月NZ住宅建設許可(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

8月の見通し

8月のNZドル相場においては、日本時間8月10日30時に発表される政策金利が最も注目される。市場では9割以上が利下げを見込んでおり、こうした市場の期待を裏切ることなくRBNZが利下げを実行するかどうか、そして声明において追加利下げについてどのようなスタンスを示すかが焦点となる。利下げをした場合、声明で当面は政策を据え置いて様子見とする姿勢が強いようなら、NZドルは一旦売られた後に反発すると考えられる。しかし、利下げを決定した上で、声明において9月理事会での追加利下げの可能性を示唆するようなら、大きくNZドルは売られそうだ。

月初、米雇用統計など重要イベントや、NZ中銀の政策金利発表を通過すると、市場は夏季休暇のために閑散ムードが広がり、NZドル/円相場にも方向感が出にくくなる可能性はある。しかし、月末に近づくに従い、市場参加者が相場に復帰し、米国の9月利上げの可能性を模索する流れになると見る。そうした流れの中で、主要国株価が動けば、NZドル/円にも方向感が出てこよう。(石川)

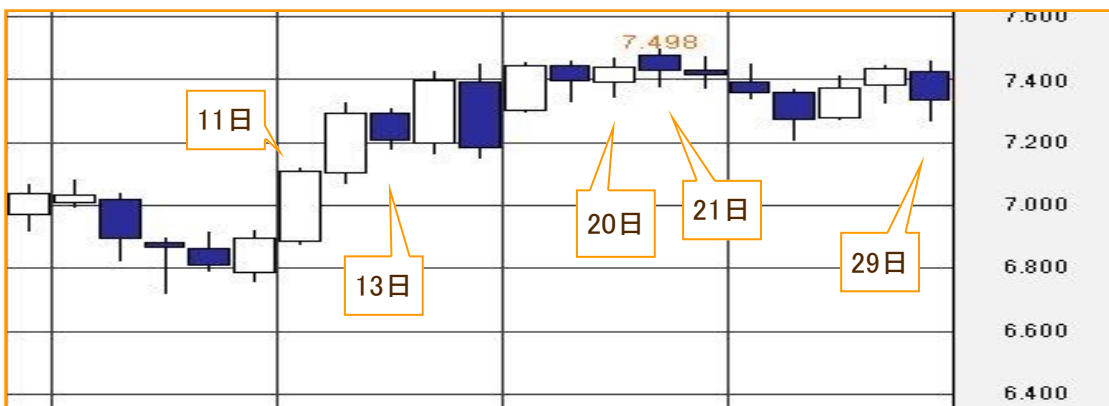
(予想レンジ: 70.000~76.000円)

ZAR/JPY

ランド/円 7月の推移

7月のランド/円相場は、6.726～7.498円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.9%の上昇(ランド高・円安)の推移となった。

南アランドは月初は英国の欧州連合(EU)離脱決定の余波で軟調に推移する場面も見られたが、本邦の経済対策への期待を背景とする円売りが出た事や、混迷すると見られていた英国の次期首相がメイ内相で内定し、早期就任が決定した事を背景にリスクオフムードが後退する中で上昇。南アが世界の生産量の約7割を占めるプラチナ価格の上昇なども相まって、21日にかけて7.498円まで上昇した。南ア中銀(SARB)は利上げを遅らせる余地があるとしているが、これは南ア国内経済にはプラスと受け止められ、ランド安には結びつかなかった。なお、13日は南アの小売大手シュタインホフ・インターナショナルが約6億ポンドで英小売パウンドランドを買収提案したことが報じられたが、ポンド/ランド相場でも影響は見られず、ランド/円にも動きは出なかった。



四本値

OPEN	6.975
HIGH	7.498
LOW	6.726
CLOSE	7.338

11日	週末に行われた本邦参院選で与党勝利が伝えられる中、日経平均が大きく上昇し、当初は頭の重さが目立ったドル/円も次第に上昇。クロス円も連れ高となり、ランド/円は上昇した。さらに、安倍首相が「明日、経済対策の準備に入るよう石原大臣に指示」「力強いスタート切る経済対策にしたい」などと発言し、日経平均が600円超の大幅高になると、ランド/円は上げ幅を拡大した。
13日	南ア5月小売売上高が前年比+4.5%と市場予想(+1.5%)を大きく上回った。
20日	南ア6月消費者物価指数は総合が前年比+6.3%、コアが同比+5.6%となった。双方市場予想通りの上昇幅であったが、前月(+6.1%、+5.5%)からは上昇幅が上がっていた事から、発表後はランド買い優勢となった。
21日	南ア中銀は市場予想通り、政策金利の据え置きを発表。その後、クガニャゴSARB総裁が「消費者物価指数や成長見通しについて懸念している」「追加の引き締めを遅らせる余地がある」「利上げや利下げについては議論しなかった」などとコメント。直後に目立った反応はなく、その後はランド高がやや進む様子が見られた。
29日	日銀の金融政策決定会合に対する思惑で発表前は乱高下。その後、日銀がETFの買入規模を拡大(3.3兆円→6.0兆円)すると、発表直後は円売りが強まり、ランド/円は値を下げた。なお、南ア6月財政収支は238.7億ランドの黒字(市場予想: 237億ランドの黒字)、貿易収支は125億ランドの黒字(同: 88億ランドの黒字)と、市場予想よりも強い結果になったが、ランド相場に目立った反応は見られなかった。

日経平均

OPEN	15698.02
HIGH	16938.96
LOW	15106.52
CLOSE	16569.27

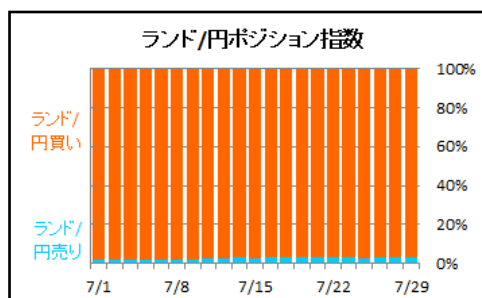
NYダウ平均

OPEN	17924.24
HIGH	18622.01
LOW	17713.45
CLOSE	18432.24

N Y 金

OPEN	1324.80
HIGH	1377.50
LOW	1312.50
CLOSE	1357.50

7月のポジション動向



8月の南アフリカの注目イベント

- ・6月南ア小売売上高(17日)
- ・7月南ア消費者物価指数(24日)
- ・7月南ア生産者物価指数(25日)
- ・7月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

8月の見通し

ランド/円は6月は英国の欧州連合(EU)離脱を受けたリスク回避の流れの中で大きく売られたが、7月は他の通貨に比べて買われた。7月に入って英国のメイ首相就任とともにEU離脱に絡む懸念が和らぎ、かつ日本の経済対策への期待感を受けた円安がランド/円上昇の背景として大きかった他、プラチナ(南アが世界の生産量の7割を占める)価格の戻りや、南ア中銀の利上げペースにゆとりが生じ、利上げが経済の重石となるリスクが後退した点もプラスに働いた模様。ただし、南アフリカには依然として格下げリスクがある。また、プラチナ価格の上昇についてもリスクオンムードやドル安が続いている間は良いが、プラチナの需給環境が劇的に改善したわけではないため、早晩にもランドを押し上げる力が減退する事は十分にあり得る。ランド/円は4月に付けた高値7.770円は視野に入っているものの、それを突破してさらに上値を伸ばすのは簡単ではなさそうだ。日本サイドの材料としても、2日に打ち出される見通しの経済対策が出しまえば、材料出尽くしで却って円が買われる可能性もあり、ランド/円を押し上げる方向に機能させるのは難しいと見る。ランド/円を取引する場合は、上昇基調が続いている間は波に乗り続けるのも有効だが、市場のムードが転換するや否や離脱する準備は必須といえよう。(石川)

(予想レンジ: 6.700~7.800円)